

「アサクラサンショウの耐湿性台木による 枯死回避とブランド化」

兵庫県立農林水産技術総合センター
北部農業技術センター
松浦 克彦

はじめに

「アサクラサンショウ」

- ・アサクラサンショウは実サンショウとして兵庫県北部地域の特産物で、兵庫県養父市八鹿町朝倉が発祥といわれている。
- ・枝に刺がなく、房が大きいのが特徴である。
- ・江戸時代中期には朝倉氏の子孫が江戸幕府に献上したとの記録がある。

枝にとげ
がない

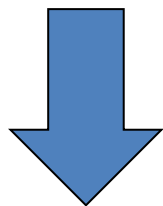


大房である
(粒数が多い)

枯死問題(平成10年頃)

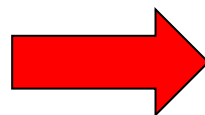
栽培管理が比較的簡易で鳥害等を受けにくい樹種で
中山間地での栽培品目として注目

しかし



枯死が続発し、植え替えても枯死。
古い産地でも同様の傾向でアサクラ
サンショウの産地自体が衰退

中山間地に植え付けられた
アサクラサンショウ。
(2年目で落葉が著しい)



I 枯死原因の解明

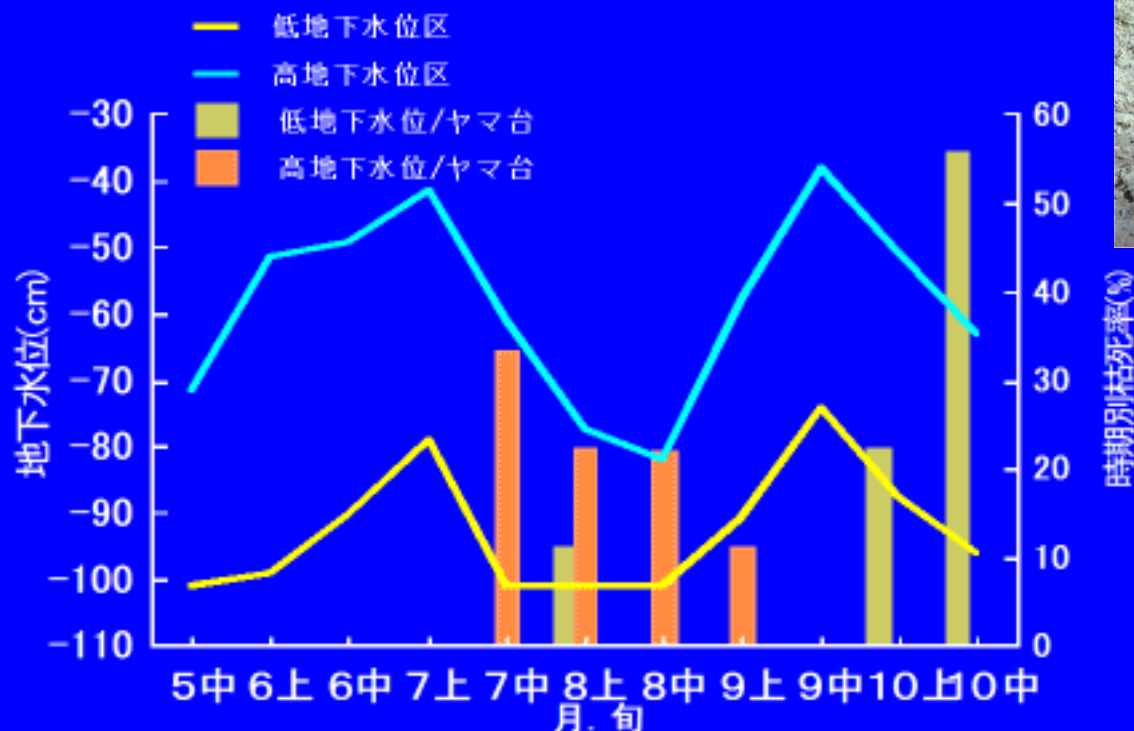
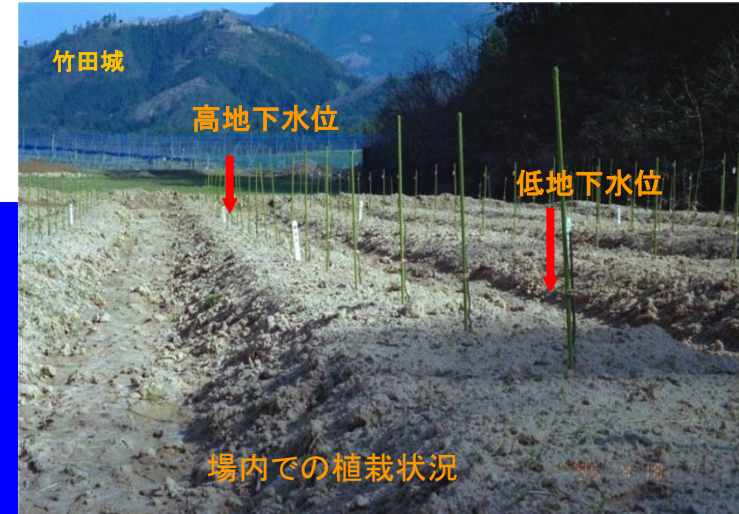
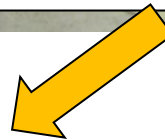
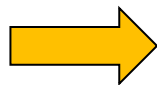


図 地下水位と時期別枯死率の関係
(平成11年、2年生苗)

地下水位が上昇後、枯死が発生し、地下水位が高いほど早期に枯死する

他の地域でも同様の傾向 ➡ 枯死の主な原因は湿害と推察

Ⅱ 湿害に強い台木の探索



根が強く、乾燥によく耐えるといわれていた

当時一般的に
台木として利用



葉の黄化・落葉程度から
耐湿性が最も優れている
と推察

強勢であるが、常緑樹
であり兵庫県北部地域
では生育困難？

ヤマザンショウ

イヌザンショウ

フユザンショウ

植え付け後3年目の生育状況

フユザンショウ台

枯死しやすい高
地下水位で栽培

既に枯死
ヤマザンショウ台

フユザンショウ台はアサクラサンショウとの接ぎ木試験により親和性も高く、また、ヤマザンショウ台でほとんど枯れる条件（高地下水位）でも枯れにくいことが明らかとなった。

Ⅲ アサクラサンショウの優良系統の探索

表 各系統の果実(房)特性

系統名	房数	粒数	100粒重
八鹿系	123.0	49.6	5.86g
北斗系	51.5	30.1	5.84
止々呂美系	70.0	46.7	5.90



※ 3年生樹(台木:ヤマザンショウ)

原産地といわれている
八鹿系が最も優れている



八鹿系からさらに優良系統を
選抜し母樹として活用

IV 成果を現地へ

- ・アサクラサンショウ研究会(講習)



- ・せん定講習会



- ・モデルほの設置(県北部地域を中心に9カ所)

- 朝来市 サンショウモデル園の状況



《植付け時》 (平成18年11月13日)



(平成22年6月25日)

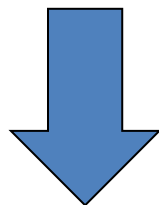
V 関係機関の協力によるブランド化の進展

朝来農林振興事務所

アサクラサンショウの事業を新規に立ち上げ

朝来農業改良普及センター

JAたじまにアサクラサンショウ部会の設置の
提案 等



栽培面積：約3.6ha(平成22年)から約24ha(令和5年)へ
朝倉さんしょ部会員 約700名(令和6年)